

利上げ加速を一段と促す内容となった、米消費者物価指数

ポイント① 米CPI、約40年ぶりの高水準

2月10日に発表された1月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で7.5%上昇し、事前の市場予想を上回り、約40年ぶりの高水準となりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIにおいても、FRB（米連邦準備制度理事会）が物価安定の目標に掲げる2%の水準を10カ月連続で上回る、6.0%（前年同月比）の上昇を見せ、FRBに、利上げ加速を一段と促す内容を示しました。他方で前月比では、CPI・コアCPIともに昨年12月に続く、0.6%の上昇となりました。

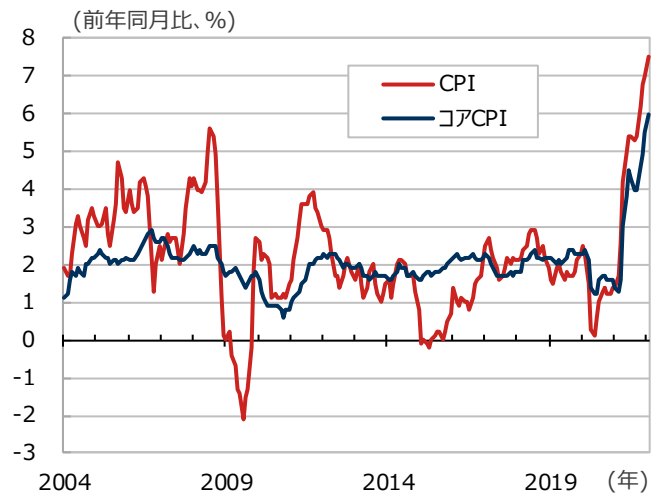
ポイント② 大半の項目で前月比の伸び上昇

項目別では、家庭用電気料金が約16年ぶりの大幅な上昇を記録したほか、CPI全体の約1/4を占める帰属家賃が前月比で0.4%上昇するなど、ほぼ全ての項目で、価格の上昇が続きました。対して、前月比で0.8%の低下となったガソリンですが、直近ではウクライナ情勢の悪化や米国内での大雪などの悪天候も相まって、価格の上昇が続いており、来月発表のCPIでは指数の上振れが見込まれる模様です。このようにインフレが長期化する米国ですが、足元では持続的な物価上昇要因とされる賃金も上昇傾向にあり、FRBの早急なインフレ抑制策を求める声も大きくなっています。

ポイント③ 米10年債利回りは2%台まで上昇

市場では1月のCPIを受け、FRBが3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）にて0.5%の利上げに踏み切り、バランスシート縮小の開始時期も前倒しするとの観測が高まっています。CPI発表後の米10年債利回りは一時2%台まで上昇したほか、米ドルも主要通貨に対して上昇基調に推移しました。

米消費者物価指数の推移



米10年債利回りと為替の推移



重要イベント 2月16日 米小売売上高（1月）
米鉱工業生産指数（1月）
1月開催のFOMC議事要旨公表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。